板塀の町並みと市場のにぎわい

梅屋小路〜関口小路

●江戸時代、回船問屋の大店のほとんどは大川前通(現在の上大川前通)や本町通に住んでいました。この周辺では、そうした回船問屋の建物や、古い町屋などを見ることができます。歴史を感じるお屋敷の板塀に沿って小路を通りぬけた先は、下の本町市場のにぎわい。人の暮らしの昔と今が、ここでは穏やかにつながっているようです。

27 梅屋小路(うめやこうじ):江戸時代からの小路名であるが、名のいわれは不明。梅屋小路は新潟言葉で「むめや小路」と発音される。

29 思案小路(しあんこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に貝屋次左衛門の屋敷があったので、元は貝屋小路と呼ばれていたが、幕末ごろから思案小路に変わったらしい。

31 甚九郎小路(じんくろうこうじ):江戸時代からの小路名であるが、名のいわれは不明。新潟言葉で「ぜんくら小路」「じんくら小路」などと発音される。明治の町名改正では、横六番町通に改められた。

30 茂作小路(もさこうじ):江戸時代からの小路名であるが、名のいわれは不明。「むさ小路」と記す絵図もあるが、新潟言葉のなまりと思われる。

茂作小路で子ども時代を過ごした画家の三芳俳吉さん(1910〜2000年)。当時の思い出を描いた絵本「砂丘物語」(福音館書店)に茂作小路の町並みなどを描いています。

新潟みなとの水戸教発祥の地 日和山へ

熊谷小路〜斎川小路〜日和山住吉神社

32 放生津屋小路(ほうづやこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に放生津屋徳左衛門の屋敷、東堀とこの角に右近三十郎の屋敷があった。この小路を右近小路と記す絵図もある。放生津屋小路は新潟言葉で「ほうぞや小路」などと発音される。

33 関口小路(せきぐちこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に関口六助の屋敷があったので、関口小路と呼ばれたらしい。近くにある右近三十郎の名をとって右近小路と記す絵図もある。

34 熊谷小路(くまがやこうじ):江戸時代、本町通にはこの小路を挟んで熊谷市左衛門と宮田覚左衛門の屋敷があった。この小路を覚左衛門小路と記す絵図もある。熊谷小路は明治の町名改正で横七番町通と改められた。

※写真の「門の湯」さんは2014年閉店されました

にいがた名所日和山

●長谷川雪旦の描いた日和山

船乗りが、出帆を決めるために天候や風向きを観測する高台を「日和山」といいます。新潟の日和山の場所は、昔の町名でいうと片原通浦崎町の下(シモ)の突き当たり、現在の東堀通13番町で、名所として賑わっていました。長谷川雪旦(古町5〜7の項参照)の『北国一覧写 出羽越後』に収められた日和山の絵には、頂上の松や遠めがねをのぞく人、沖の船、ふもとの茶屋と町などが描かれています。絵の上方に描いてある丸い石は、船頭や水戸教(みときょう=水先案内人)が使う「方角石」。現在日和山には、明治24(1891)年に奉納されたものがあります。

長谷川雪旦『北国一覧写 出羽越後』より 天保2(1831)年頃の日和山

2016年10月ブラタモリ 新潟のロケ地ですぞー

●川村修就が描かせた日和山

新潟の初代奉行・川村修就(ながたか)が嘉永5(1852)年に作らせた新潟の風俗絵巻『蟹の手振り(あまのてぶり)』には、日和山の脇を通って湊祭りへ向かう楽しそうな人々のようすが描かれています。この絵巻は新潟市歴史博物館みなとぴあに保存され、複製の一部を見ることができます。

浜へ向かう湊祭の行列。その明かりは佐渡からも見えたとか

嘉永5年(1852)新潟の町へ訪れた吉田松陰は日和山にも上り、海岸を歩いたそうです。

左:『2014年の日和山』かつては上の絵巻物のような船見櫓が残りました。現在は五合目にカフェがあります。
右:みなとまちの象徴である方角石は、日山神社や曙公園、小路案内板や誘導サインにもモチーフとして使われています。
下:現在の方角石。

日和山は2009年に改修工事が行われ、名所として復活しました。2015年には新潟市民文化遺産にも登録されました。

GOOD DESIGN AWARD
2014年度受賞
みなとまち新潟・日和山 進化する 日和山物語

審査委員の評価 住民自らが地域の潜在的な魅力を発掘し、整備にまでつなげたプロジェクト。既に受賞している「新潟の町小路めぐり」との連携や、応募者の地域へのコミットメントの深さも評価されました。

日本遺産